



とうとう12月をむかえました。早いですね。

この時期、子どもたちの育ちは、とてもうれしい一面なのですが、年長児たちは、あと何ヶ月かのかなと、それを想うと切なくなります。

スタッフたちも、同じことを想いながら、発表会へ向けてこの12月を乗り切ってください。これからの2学期の日々をがんばります。

■自分の「日は、歌ではまり、歌で終わる!」と言われるほど、子どもたちの歌声が響く幼稚園なのです。

でも、コロナの影響で、発表会ではそれと出来ない。年長児たちのハーモニカの発表と出来ません。

子どもたちは、年少児の時から「グリーカード」の指導を受けております。

ですから、年長児たちは譜面も読めるし、リズムもわかります。

これに合わせてハンドベルに挑戦しており、日毎に上達しており、私たちビックリしております。2年前の発表会で、オープニングで100名の年長児たちが、ベトナムの「奮闘の唄」をハーモニカで合奏していました。

今年は、ハンドベルで挑戦しますが、聞いてもらうのは3学期かな!!

■発表会の劇は、学年によってスタイルが違います。

年少組は「おはなしげき」で、簡単なストーリーを担任のナレーションで進行して、子どもたちは、それぞれの役の衣装等を身に付け、セリフと演技で表現します。



年中組は、曲とセリフと、ナレーションCDです。それに乗って精いっぱい演技を観せてくれます。

自分の役になり切ります。

年長組は、本格的な劇の構成になっております。与えられたセリフを一字一句をしっかりと覚え、舞台上で堂々と言えるように、練習をしていきます。歌あり、ダンスあり、アクションあります。

どのクラスも「観てくれてありがとう」の意を込めて「フィナーレ」を発表します。ご期待を!!

(心の育ちシリーズ) 「男の子は「モジモジ」、女の子は「キハキ」」 ママの安心子育て
うたのよこ先生
お茶の水女子大
名誉教授

「男の子なんだから、はっきりしなさい! 耳にすかかからずに、ちゃんとあいさつして!」小学生の男の子のお母さんが、一度は口にするセリフでしょう。女の子がしっかりしている場合が多いので、「うちの子大丈夫?」と心配をするでしょう。

個人差はありますが、幼児の頃、男子は言葉の発達は女子に比べて遅いものです。言葉が出てきにくいのでコミュニケーションがスムーズにいかず、耳にすかかたり、どじどじしたりしがちなのです。

その原因は、脳の発達にあります。言葉を司る脳、「左脳」の発達は女の子の方が早く、女の子は早い段階で「ありがとう」「こんにちは」などの基本的な言葉を口に出せるようになるので、しっかりしているように見えるのです。

「男の子なんだから、しっかりすべき」などの先入観や固定観念に囚われていると、つい叱ったり責めてしまったりするかと知れません。でも、ちょっと待ってください。そんな時に追い詰めるような言葉をかけると、男の子は余計に自信をなくしてしまいます。人と挨拶したり会話する、コミュニケーションへの苦境、識が更に強くなるかと知れません。

ですから「モジモジ」で、小さな声で何か言ったら、むしろ自信が持てるように「良く言えたわね!」などと褒めてあげ、認めてあげましょう。

幼い頃は、体の面でも学業面でも、さらに社交面でも女の子の方が優秀な傾向にあります。しかし、思春期頃を境に、男の子の身体的成長が女の子を上回り、遅くになります。自分の意見をしっかりと持ち、説得力のある意見を言えるようになります。

親は、じっくり落ちついた目で、我が子の成長を見守りたいですね。